

自己評価				学校関係者評価	
学校運営計画 (4月)				評価 (総合)	
学校運営方針	(教育目標)	(運営方針)	評価 (総合)	自己評価は	
	<p>本校を踏まえ、本校の課題を常に意識し、規律正しい豊かな人間性をもち、主体的に学ぶ意欲と自らの未来を切り開く志を持った生徒を育成する。また、本年度のコンセプト「やってやる」『チーム三潁2021』のもと、グローバル化した社会の一端でも何事にも備え、逞しく活躍する生徒の育成に努める。</p> <p>教育目標を達成するために、次のような「目指す 学校像・生徒像・教師像」に思い、確かな学力・豊かな心・健やかな体を基盤とし、社会を生き抜く力の育成を図るとともに、地域に根ざした存在のある学校づくりを目指す。</p> <p>(1) 目指す学校像 ア 全職員が同一目標に向かって何事にも全力で取り組む意欲と活気に満ちた学校 イ 生徒と教員が共に学び、能力に応じた教育を効果的に提供する学校 ウ 規律正しい学校生活を送り、地域や同窓生から愛され信頼される学校</p> <p>(2) 目指す生徒像 ア 互いに認め合い、高め合うことができる、豊かな心をもった生徒 イ スポーツと文化芸術をとおして、知徳体ともにバランスのとれた生徒 ウ 自分の能力を信じ、努力することを最後まで諦めない生徒</p> <p>(3) 目指す教師像 ア 教育活動全般にわたり利他の心を持って接する教師 イ 実践的指導力の向上を目指し、常に自己研鑽に努める教師 ウ 常に率先垂範に努め、生徒の自主性が育まれるような人間味豊かな教師</p>			<p>A : 適切である</p> <p>B : 概ね適切である</p> <p>C : やや不適切である</p> <p>D : 不適切である</p>	
【成果】	「三潁高校ブランド」の実現に向けて邁進する	具体的目標			
【課題】	全職員が同一目標に向かって、生徒の能力に応じた教育を効果的に提供することが必要である。そのために、3年間を見通したロードマップを有効に活用することで、本校の課題である生徒募集に繋げたい。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
特色ある学校づくり	地域に根ざした学校づくりの推進	地元中学生や地域の方々に参加していただき、生徒がグループごとで作成した「学校(地域)紹介プログラム」を発表する。それをもとにワークショップを行い、地域に根ざす学校の在り方を構築するとともに情報発信の強化に努める。			
	「スポーツの三潁」を中心とした魅力ある学校づくりと活性化の推進	3年間を見通した教育活動(ロードマップ)を推進し、大学や地元企業との連携をおとしたカリキュラムの工夫をとおして、地域社会に貢献する人材育成を目指す。			
		スポーツ教室等、地域との交流を深めることをとおして、する・観る・支える・知る・極める生徒の育成を図り、「スポーツの三潁」の充実・発展を推進する。			
		再生社会を視野に入れた実習等能力あるカリキュラムの工夫と実践をとおして、生徒の学力向上と進路実現を図る。			
		WIFI環境を利用してICT機器を使って積極的知識習得をする実践的な態度を身につけさせる。			
		主体的・対話的で深い学びになるよう、授業の中で考え、疑問に思うことを他者と共有することにより、積極的なコミュニケーションをとりながら自らの知識を更に高める授業の実践を図る。			
		生徒自身が課題を発見し、その課題を達成するためのプロセスを教師が導き、その実践に全力を注ぐ授業形態の確立。			
		生徒の授業評価を活用しながら、50分の授業に耐えうるわかる授業の研究を推進し、欠点ゼロの実現を目指す。			
		広報委員との連携を深め、PTA活動や学校の教育活動が見えるPTA新聞の作成を目指す。			
		魅力ある活動内容を計画し、PTA活動へ多くの参加者を募りたい。また、本校の魅力を保護者からも広めてもらう関係作りを目指す。活性化を促す。			
		同窓会各支部会議および後援会指針の資料提示を念頭に置き、校内外での活動を効果的に紹介できるよう整理し支援につなげる。			
		創立100周年(2023)に向けた、資料の整理・保管に努める。			
		スポーツ文化コースの特徴とともに、普通科一般教養コースの魅力と特徴が伝わる学校案内を作成する。			
		毎月本校の教育活動が具体的に伝わる三潁ニュースを、定期的に作成する。			
		部活動の活躍などの不定期トピックスを伝える三潁速報を、各部・各行事で担当の生徒を決め、タイムリーに掲載する。			
		ホームページをより充実させる。同窓会の協力を得て、広報誌の配布や掲示する場を広げ三潁高校の情報を発信する。			
		中学校担当者による各学期に1回程度の訪問を実施し、学校全体・職員一丸となって広報活動を展開する。			
		訪問先の中学校出身生徒の情報を具体的に伝え、本校のきめ細やかな指導を中学校側に理解してもらう。			
		進路相談事業や中学生体験入学で本校生徒の活躍の場と中学生とのふれあいの場を工夫する。			
		本校の学校行事に中学生を招待し、本校の魅力を中学生が体感する場を作る。			
		生徒の身なりについては、全職員で「その場でその時指導する」の共通理解のもと指導の徹底を図る。			
		「地域の中の学校」として各学期の地域ボランティア活動や地域行事(城島まつり、酒蔵開き等)に積極的に参加し、地域貢献を果たす。			
		生徒会、各種委員会生徒を主体的に活動させ、魅力ある学校行事(地域中学生が参加する行事含む)を推進する。			
		生徒自身が5分前行動の習慣化とワンストップ挨拶を励行することにより、自己責任感を養い、相手を思いやる気持ちを育成する。			
		教育相談等で気になる生徒の情報を共有し、全職員で組織的な対応を行う。			
		いじめアンケート、学校生活アンケートを実施し、生徒の状況把握を行うとともに、職員の情報共有を図ることでの的確な早期対応に繋げる。			
		交通安全教室、二輪車実技講習を開催することで、生徒の交通安全に対する意識を喚起する。			
		PTA生活委員会と連携し、登下校指導や校外指導を推進する。通学マナー、危険箇所の情報を共有し、生徒の交通安全事故防止に努める。			
		集団としての基礎をしっかりと作り、計画的で効果的な練習を行い、部活動として規範となる活動を実践する。			
		各部活動生徒が安心、安全に日々の練習が行える環境づくりをしていくための支援態勢づくりを推進する。			
		生徒の人間力を高めるための活動が目的であるため、協調性や相手を思いやる態度の育成に努める。			
		「保健だより」を定期的に発行し、配布の際には保健委員会から連絡を行う。			
		生活実習調査や意識調査などを行い、その結果を入れるなど「保健だより」の内容について創意工夫し、健康面や安全面に係る関心や意識を高める。			
		校外研修に積極的に参加し、その内容を生徒総会等で発信する。			
		健康管理について集会等で注意を促し、保健室での休息は1時間という原則を守るよう徹底させる。保健室利用状況を担任、学年団に報告連絡する。			
		教育相談委員会を開催(毎月1回)し、課題を抱える生徒を把握し早期対応にあたる。			
		課題を抱える生徒や保護者を、専門医療機関、専門職(医療カウンセラーやSC)に適切につなぐ。			
		支援が必要な生徒を把握し、個別の支援計画・指導計画の作成と教育相談を行う。			
		職員研修や総学年会、授業担当者会等で支援が必要な生徒の情報を提供することで、全職員が共通認識を持って適切な指導が行えるようにする。			
		環境美化委員会の充実と活性化			
		清掃時間音楽を流す等、毎日15分の清掃を確実に行う習慣をつけさせる工夫をする。			
		第一希望の進路実現を目指す指導体制の確立			
		教務・生徒・学年との連携を図り、定期的な面談や進路希望調査により早期に進路希望を定めるとともに、目標に向かって努力させる。			
		進路希望に合わせた課外の実施と朝学習、模試を進路指導に活用する。			
		情報の共有の推進			
		スタディサプリ/スタディサポート/Classiの振り返り会・説明会を実施するとともに、外部研修の内容を全体で共有する。			
		進学実績向上に向けた対策の推進			
		各コースと連携しながら、情報提供と久留米大学を中心に高大接続の事業を提案する。			
		内定率100%の達成			
		総探や夏季休暇中の対策講座を活用するとともに、外部講師による勉強会を実施する。			
		公務員指導の充実			
		地域創造コースと連携しながら、保護者説明会、課外授業等効果的な指導・支援を進める。			
		インターンシップの充実			
		進学希望者にも広く参加を促し、事前指導と事後指導・報告会を実施する。			
		キャリア教育の視点からの総学・総探実施とPDCAの取り組みの推進			
		キャリア教育推進委員会を学期に1回実施し、改善・工夫をする。			
		学年や教科と協力して計画的に総探を実施し、PDCAサイクルを回す。			
		自己有用感の育成と生徒への「主観的成長」への支援			
		キャリアパスポートを修正し活用する。			
		家庭や地域社会との連携を深め、「社会参加」の意識を念頭に置いた進路指導を推進する。			
		若年教員(年1・2年目・3年目)の各研修に対応した、必要な研修内容を検討し、分享との連携を密に行い、効果的な研修を実施する。			
		生徒の学力伸長・活動実績となる外部活動の研究			
		生徒の学力を模試結果等から把握し、教科と連携して学力の強化を図る。また生徒の進路目標を踏まえ、進路選択に有利な課外活動や受験方法を、進路先を提示する。			
		進路向上に向けた対策の推進			
		各校の受験科目や方法、難易度について整理し、進路目標達成につながる様々な道を開き、生徒に提示し、進路実績向上に繋げる。			
		公務員・就職対策の充実			
		各教科と連携して一般教養を身に付けさせるとともに、朝課外・模試を活用し、進路指導の充実を図る。			
		地域学習、高大連携事業の推進			
		地域学の授業内容・評価を検討する。また近隣地域の研究・大学での協働活動や協議を通して生徒の知見を広げ、コミュニケーション能力を育成し、総合的な人間力の育成に繋げる。			
		基礎学力向上			
		D3層の基礎学力の定着			
		学力到達度ゾーン(G・T・Z)D3層の生徒に対し、朝課外や放課後に対策講座を実施して担任・各教科と連携して基礎学力の定着を図りつつ、学ぶ姿勢を養う。			
		スポーツ北コース			
		重点6競技の実績向上を図り「スポーツの三潁」を県内外にアピールする			
		全国大会30名・九州大会60名以上の出場を果たすとともに、チーム競技の実績向上を図る。			
		生徒の主体性を引き出す			
		体育科職員、クラス担任と連携を図る。スポ文集会を計画的に行う。			
		練習環境の充実			
		練習時間の確保。練習施設の充実。			
		地域との連携を図る			
		地域小学校(大善寺小学校、西本田小学校)で体力測定実習の補助実習を実施する。地域行事(城島まつり等)に積極的に参加する。			
		魅力あるコース作り			
		各実習を充実させ、チーム三潁の実現を目指す			
		週一回体育科会議を行い情報交換を行い、意見交換を行う。			
		人間の魅力の向上			
		学校行事、地域行事に積極的に参加する。			
		生徒確保			
		より質の高い生徒の確保を行う			
		中学生の大会視察や中学校訪問を計画的に行う。			
		学習指導要領の改訂(令和4年度)に向けて教務課と連携し、教材等の計画的購入を行う。			
		学校施設等の改修や教材教具の充実を目指す。			
		オンライン授業等に対応するため、継続してICT機器等の整備を進める。			
		学校施設について5月末までに安全点検を行い、事故等の未然防止に努める。※衛生委員会と連携			
		新型コロナウイルス感染症対策や熱中症対策については、保健環境課と連携して保健衛生用品の迅速かつ計画的な購入を進める。			
		生徒・教職員の安全確保、事故等の未然防止の観点から、防犯カメラの設置について検討を行う。			
		運営委員会等の場において、事務室の成果・課題を提示することで事務処理の透明性、信頼性を確保するとともに、課題を共有し改善につなげる。			
		業務改善の視点から、シルバー人材センター等外部委託業務の拡充やシステム・機器利用を進める。			
自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策				評価項目以外のものに関する意見	

福岡県立三浦高等学校 令和2年度 学校関係者評価書

福岡県立三浦高等学校長 殿

福岡県立三浦高等学校 学校関係者評価委員会

委員長 森崎 昌樹 印 千代島 龍一 印 堀田 洗太郎 印 下川 達也 印

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

Main evaluation table with columns for 'School Operation Plan (4 months)', 'Evaluation Items', 'Evaluation Results', 'Comments', and 'Self-evaluation'. It includes detailed descriptions of school activities, curriculum, and student support, along with corresponding evaluation scores and committee feedback.

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまた改善案(項目を特定して、箇条書きで記入すること。)

※ この欄は学校関係者評価委員会では記入しないこと。